

十和田市事務事業評価シート

担当課名	土木課
------	-----

【事務事業の種類と位置づけ】

市総合計画 実施計画番号	16	整理番号	29
基本目標	人と自然が共生する「しぜん感動・創造都市」		
施策の展開方向	地域基盤の整備		
事務事業名	道路の整備		
事務の種類	自治事務	根拠法令等	道路法
関連する事務事業			

【人件費の推移(概算)】

		21年度実績	22年度実績	23年度計画
正職員	従事者数(人)	5	5	5
	活動日数(日)	220	220	220
	人件費(千円)	39,600	39,600	39,600
正職員以外	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

事業費合計(千円)	21年度実績	22年度実績	23年度計画
	1,209,276	1,196,138	1,042,766
うち一般財源			466,166
うち国県支出金			142,500
うち地方債			434,100
うちその他			0

【事務事業の概要】

対象 (誰(何)を対象として行うのか)	道路利用者と道路沿線の住民
意図 (対象をどういう状態にしたいか)	安全で良好な道路環境を提供する。
手段 (どのようなやり方で行うのか)	道路整備(道路拡幅、舗装、側溝などの整備)

【指標】

活動指標 (活動の規模)	活動指標名	道路整備による延長				
	計算式等	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	
		km	17.7	12.4	10.1	
	活動指標名					
	計算式等	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	
成果指標 (意図をどの程度達成しているか)	成果指標名	道路整備の進捗率(舗装率)				
	計算式等	単位	21年度	22年度	23年度	
		%	目標値	73	73	77
			実績値	73.4	73.6	
			達成度(%)	101%	101%	
	成果指標名	道路整備の進捗率(改良率)				
	計算式等	単位	21年度	22年度	23年度	
		%	目標値	55	55	60
			実績値	56.1	57.1	
			達成度(%)	102%	104%	

十和田市事務事業評価シート

整理No	29
計画No	16

【担当課による検証】

ポイント		検証	評価	点数	合計	検証の理由		
妥当性	市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地	0 / 4	
	実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2		道路法では、道路管理者が道路の整備を行うこととなっており、また、市民、各種団体から道路整備に関する要望が多く事業は妥当である。		
有効性	活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	成果向上の余地	0 / 6	
	成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2		道路整備は、計画的に進んでいる。		
	事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2				
効率性	事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済	A	2	6	コスト削減の余地	0 / 6	
	他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済	A	2		それぞれの道路の機能に合わせた必要最小限の規格整備と徹底したコスト縮減に努めている。		
	民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済	A	2				
公平性	受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地	0 / 4	
	受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		道路整備は、地域の特性や道路の現状を踏まえ、市の財政事情、市民の要望等を考慮し、公平・効率的な道路整備を図っている。		
現在の適性					20 / 20	改善の余地		0 / 20

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の平成24年度の方向性

現状のまま継続

方向性の理由

未整備道路の整備を実施し安全で良好な道路環境を提供する。

今後の具体的な取組み方策と狙う効果

それぞれの道路の機能に合わせた必要最小限の規格整備と徹底したコスト縮減により整備路線の拡大を図る。